本書の構成と使い方

■基本的な構成

それぞれのページは、左右でペアになっています。右側に問題と解答用スペース、左側に解答例と解説があります。解くときは、左側のページを隠すなどして、見ないように注意してください。

■重要なポイント

説明記述のポイントは設問の正確な読解です。注意すべきことは、問題が何を答えるよう求めているか、どう答えるよう指定しているかの２点です。
本書では「何」を **What** の頭文字の **W** で、「どう」を **How** の頭文字の **H** で表します。くわしくは次のページを読んでください。

■「練習問題」のページ（右側）

主に過去の公立高校入試問題から選ばれた設問が各ページに２～４問あります。
設問の下の空白が解答用スペースです。なお、作図の問題は指定された場所に書いてください。

■「解答例と解説」のページ（左側）

問題ごとに次の項目が並んでいます。

①設問

問題ページの設問文です。解答のポイントになる **W**（何）、**H**（どう）の部分に目印がつけられています。これが自然につけられるようになれば、得点力は向上しているはずです。

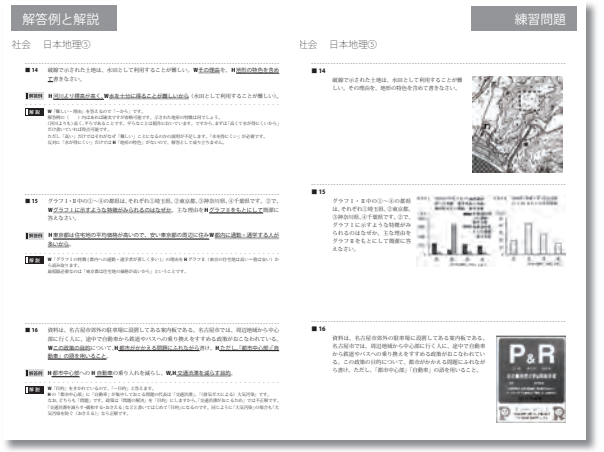
②解答例

ここでも **W**（何）、**H**（どう）に目印がついています。上の設問と対応させて、どのように解答例が作られているか確認して下さい。なお、説明記述問題は、完全にこのとおりでなければいけないわけではありません。解説を読んで、必要な内容を理解してください。

③解説

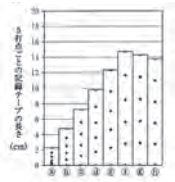
W（何）、**H**（どう）をチェックした結果、どのように書くのが適切か、また、部分点の可能性のある解答はどのように書けばよいのか、不正解になる解答はどこに問題があるのか、などをまとめてあります。よく読んで、設問の内容と自分の解答の理解を深めましょう。

解答例と解説　　練習問題



■ 4

右の図は、斜面の上に置いた力学台車を静かに離して、運動のようすを記録タイマーで記録した。区間ⓐ～ⓕでは、5打点ごとの記録テープの長さが変わっている。区間ⓐ～ⓕでは、力学台車の速さはどのように変化したか。その速さの変化を、力学台車にはたらく力の向きに関連づけて、簡単に書きなさい。



ここに解答を書く

設問

■ 4 右の図は、斜面の上に置いた力学台車を静かに離して、運動のようすを記録タイマーで記録した。区間ⓐ～ⓕでは、5打点ごとの記録テープの長さが変わっている。区間ⓐ～ⓕでは、**W** 力学台車の速さはどのように変化したか。その速さの変化を、**H** 力学台車にはたらく力の向きに関連づけて、簡単に書きなさい。

解答例 力学台車に **H** 斜面にそって下向きの力がはたらくので、力学台車の **W** 速さはだんだん大きくなるように変化した。

解説 **W**「どのように変化したか」とあるので、速くなった（速くなるように変化した）と答えます。
H「力学台車にはたらく力の向き」とあるので、下向きの力がはたらくと答えます。
これらがあれば得点できます。解答例のように「斜面にそって」があると完璧です。
また、速さは「速い・遅い」でもよいのですが、より正しい表現は「大きい・小さい」です。

解答例

解説

見本版

■目次

理科

物理 ---------- 理科 1
化学 ---------- 理科 15
生物 ---------- 理科 35
地学 ---------- 理科 53

社会

世界地理 ---------- 社会 1
日本地理 ---------- 社会 13
歴史：原始～江戸時代 ---------- 社会 25
歴史：近代・現代 ---------- 社会 41
公民：政治分野 ---------- 社会 53
公民：経済・国際分野 ---------- 社会 65